

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 6 月 1 日
事業所名	グループホーム いせ木 1階
事業所番号	2397400017
記入者名	職名 管理者 氏名 佐々木英光
連絡先電話番号	0568—29—5080

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	できるだけ家庭的な環境のなかで、施設内だけで完結せずに生活基盤を地域社会の中に求めるようにしている。	○	地域の人々との交流をさらに求めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設の理念が確認し易いように申し送りや夜勤待機場所となる職員室に掲示している。	○	一つ一つの内容について具体的に話し合える場を持ち、意識の標準化を図るよう努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民に対し施設の理念について公開したことはない。家族には入居契約時に重要事項等の説明時に話をして理解を得るようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	頻繁に散歩や買い物に出かけ、挨拶や声掛けして近所の人と交流を図っている。		普段の交流はなかなかきっかけが難しく、その方法を探していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域にあまり活発な社会活動が見られないため積極的な参加はできないが、自治会については協力体制を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流センターを有しており、その活用について自治会や老人クラブに働きかけている。	○	実際に地域の人の利用を経験しておらず、今後PRをすることによって活かしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表による方向性の確立のため、職員全員が評価表に目が通せるようにしている。	○	外部評価結果を基に施設のレベルを確認し、その方向性を見出していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の現状報告や事業報告をし、質問や意見交換することにより施設への要望や施設の困っていることなどを話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議を通して行政や他施設からの情報収集をしたり意見交換を行っている。認知症コーディネーター地域ネットに加入し地域連絡網の構築や情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度発足時より勉強会などに参加していたが、現時点で身元引受人のない利用者がないため経験をしていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念として虐待の禁止を訴えているが、福祉職員として常識の範囲であり、特に積極的な研修には至っていない。		虐待による事故を他施設で聞いているので、そのようなことがないように機会を掴まえて研修していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書や重要事項について同意を得ている。また、退去に至る施設の考え方も説明し同意を得るようにしている。</p>	<p>契約時は時間的に制約もあり十分な説明ができていない可能性もあり、できるかぎり丁寧な説明に心掛けていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の希望や意見がある時には、できるだけ希望に沿うように実現方法などを具体的に検討するようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一回通信紙を発行して施設の様子を報告したり、預かり金の収支報告をしたりしている。健康状態については、異常などが発見されればその都度報告したり意見を求めたりしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議での家族の意見以外では、特に意見交換のできる場は設けていない。現状は、その都度話を聞き対応をしている状態である。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング時には議題のみでなく積極的な意見交換ができるように心掛けている。普段から意見が汲み取れるように気軽に話しかけを行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や会議などに合わせて勤務調整を行っているが、個人的な生活パターンに合わせた勤務調整ができるほど人的資源が潤沢ではない。申送り時間を確保して継続性を確保したり、勤務が途切れたりしないような調整は常時行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規職員の場合は、慣れた職員のサポートの下で仕事の流れや利用者の特徴などが理解できるまで一緒に業務に入るよう指導している。		新規職員の研修プログラムを設けるほどの事業規模でないため、職員の研修には苦慮している。マニュアルを作成して施設内研修ができるように考えていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は機会を捉えては受講するよう努めている。内部研修も講師を依頼して勉強会を開いている。		内部研修を定期的で開催していけるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加盟し、種々の情報を得よう心がけている。地域ケア会議に参加し他事業者と交流したり情報交換をしたりしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	可能な限り休憩時間を取るようにし、喫煙場所や休憩室を設置して利用者を離れて休憩が取れるよう配慮している。全体ミーティング後に食事会を設けたりして意見をくみ取れるようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格の保持者には給与面で優遇し、また資格取得の希望には前向きな支援ををして評価できる体制作りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	いろいろと会話を試み、その中から本人の生活歴や考え方や人柄などをくみ取り、以後の対応に生かしていくようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族には、施設の方針などを話し、できることやできないことを理解してもらえるように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設により特徴があることを説明し、適切な利用を勧めている。必ずしも入居希望があるとは限らず、話を聞くだけで終わる場合もあり、どのようなニーズがあるのか見極めるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ体験入居制度を利用してもらい、施設を知った上で入居してもらうよう勧めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や洗濯や炊事などに係わっていただくことにより生活の中に役割があることを自覚してもらい、共同で生活しているという意識を持ってもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に一回通信紙を発行して施設の様子を報告したり、利用者に変化や要望があった時には電話して家族に意見を求めたりして一緒に考えていけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	衣類交換を依頼したり預り金などを現金扱いして施設訪問の切っ掛けにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元スーパーへ買い物に行ったり、馴染みの商店に出かけたりして地域社会の中での生活を継続的にできるように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った者同士が話し合ったり、共同で作業したりできるように配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでの退去者は入院による契約終了であったため、施設側から積極的に働きかけることはしていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設では本人の立場に立って介護するようにしている。希望や要望などは日々の中で汲み取り、実現できるよう努力している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や価値観などは、入居時の相談だけでなく毎日の生活の中で把握するよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	毎日の生活の中でその人のできることやしたいことを見極めて、生活援助の中に活かすよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	解決が必要なことや個人的な問題点などをミーティングで話し合い、介護の現場に活かしていくようにしている。そういった話し合いの中から介護計画の作成をしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	比較的安定した施設生活のなかで、大きな変化が見出しにくく計画見直しの機会をなくしがちである。	本人の変化に即した随時の変更と、定期的に見直していく定時変更とを組み合わせることで介護計画の見直しに取り組むたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いろいろなチェック表を作成し細かく管理できるようにし、個人ファイルに転記することにより情報共有に繋げるようにしている。大まかなポイントは連絡帳に記入して、引き継ぎに遺漏がないようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前に施設を知るために体験入居の制度を設け、入居後に違和感がないようにしたり、家族がいつしよに泊まり込んだりできるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア慰問を何回か経験したが、開設してあまり年数が経っていないためか認知度が低いこともあり、協力関係は構築されていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容や訪問歯科など、必要に応じて他の事業主体のサービスを導入している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは紹介以外に運営推進会議の委員として参加してもらい、情報交換やアドバイスを得たりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ異動することになれば、サマリーなどで情報提供し、引き続き安心して生活できるよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーや尊厳を重視し、これを守るよう配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の嗜好を理解するように努め、それに合わせた処遇ができるようにしている。選択が可能な事にはできるだけ希望を聞き、自分の意志で決定できるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の固定されたスケジュールをできるだけ減らし、個人生活の自由性を尊重するようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時と普段着とは区別したり、習慣的な身だしなみを尊重したりして個性を尊重している。理美容は主には訪問事業者を利用しているが、希望者は行き慣れた業者に行けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に買い物に出かけ、できる範囲の下準備や配膳に参加したりして食事を楽しみに感じるように配慮している。下膳も一緒に参加し洗い物をしていただき生活意識を持ち続けられるようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	居室で毎日コーヒーを楽しむ人、一人でテレビを見たい人、じっくりと写経に打ち込む人などそれぞれに個人の楽しみや嗜好を尊重するようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自分でコントロールできない人には誘導により排泄を促し、尿漏れなどの人にはパッドを使用し気持ちよく過ごせるよう配慮している。寝たきりの人以外はオムツは使用しないようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔を確保するため希望者は毎日、少なくとも隔日には入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	人それぞれのリズムを尊重して特に時間割を設けることなく、自由に休息できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や炊事、裁縫など得意なことが活かせるように役割を持って活動できるよう配慮している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる人には少額であれば本人に任せ、買い物に同行して使うことができるようにしている。お金を持つことにより精神的に安定する人が多く、手元に置きたい人には置いていただくが、但し無くしても後悔しない程度の金額である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩だけでなく、食材の買い物時などに同行してもらったり、喫茶店でかけたりする機会を設けて外出する機会を多く持つようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事などで観光地へ出かける機会を作っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいという希望が出る人が数人おられるので、事務所まで来てもらってその支援を行っている。郵便を出す人もあり、その援助をしたり投函したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常識的な時間であれば何時でも訪問は受入れ、来設時にはお茶などで接待するよう心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普通の家庭の普通の暮らしをできるように気を配り、福祉に拘束は有り得ないことを徹底している。拘束に繋がりそうな事例があれば、その都度意識して対策を考えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普通の家庭と同じように夜間以外は施錠をしない。玄関の自動ドアについては、感知しただけでは不用意に開かないで意志をもって手で開ければ開く方式を採用している。逆に家族が徘徊に対して施錠しないことに不審がることすらある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	カメラ監視やセンサーは使用せず、必ず職員のみで確認するよう努めている。夜間巡回は2時間おきに行い、音による異常発見にも努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者によって危険となるか否かを見極めてそれを使用してよいかどうか判断する。使用しないときは仕舞い込むようにしている。普段からの観察により、高度に管理する必要があるか否かを判断している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれ利用者の特徴は情報を共有するよう努め、必要な対応をすることにより事故が起きないように配慮している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	まだ応急や救急の訓練が行われておらず、資格取得時の研修に依存している。利用者が今後重度化していくことを鑑み必要性を感じている。ただ利用者の個別の病歴を把握して、それぞれの対応方法についてはその都度勉強したり医師に指導してもらったりしている。	○	救急救命研修など、資格取得時に行っているだけに頼らず随時勉強していくようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画などは作成されているが、訓練については未実施である。防火管理者講習は受講済のため早急な実施の必要性を感じている。地域住民を巻き込んだ災害対策はまだ検討されていない。	○	避難訓練や消火訓練などを早急に実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	入居時に起こりうる危険について対応方法などを話し、判断が必要な場合は指示してもらえよう 促している。施設であっても家庭と同じ生活の場 としての危険性があることを理解してもらうよう にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや入浴時の全体観察、食 事量や排泄チェックなどを通して変化に見落とし がないよう努力している。異常があればリーダー や管理者に報告すると同時にケース記録や申し送 りノートに記載し情報を共有できるようにしてい る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	主治医から直接処方してもらいくすりの用法など は指導してもらっている。その効果や結果は主治 医にフィードバックし、よりよい健康管理に努め ている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝の散歩やヨーグルトの利用や水分補給時に寒天 やゼリーを添えたりして便秘の解消に努めてい る。移動が可能な人には手出しせずに自分で動 いてもらうようにし、少しでも運動になるように している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	毎食後声掛けし口腔ケアを実施。義歯も洗うよう にしている。義歯の合わない人や虫歯の人には訪 問歯科を利用してきちんと食事ができるよう治療 などをしてもらっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	一か月分の献立を作り、長期的な栄養バランスや 食材の偏りがないようにしている。嗜好によって 食べられないものがあれば他の食材に変えたりし て摂取量に配慮している。水分補給には気を使 い、食間に必ず水分を取れるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についての知識を共有し予防に気をつけている。内玄関やキッチンには手指の殺菌消毒液を置き清潔に配慮している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日食器を漂白剤で消毒したり、献立に合わせて買い物を頻繁に行い食材を残さないようにしたりして食品の安全には配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植栽をしたりプランターを置いたりして雰囲気を和らげるようにしている。ベンチを2基設置して座って話ができるよう配慮している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	什器備品類はできるだけ家庭で使用されているものを配置したり花を飾ったりしている。居間は採光に配慮され、明るく開放的になるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ではペソファを2基、ウッドデッキではベンチを置いて居場所造りをしている。ウッドデッキからはそのまま菜園に出られるようにし、散歩できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた家具類や衣類を持ち込んでもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	本人からの希望がなければ季節によってできるだけ戸や窓を開放するようにして換気に配慮している。個室の空調機器にあまり頼りすぎないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手すりを多く設置したり、トイレや浴槽なども使い易いよう配慮されている。車椅子の自走ができるよう広めの廊下や扉を採用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個室の扉に識別用にクロスを張ったり、表札を付いたりして間違わないようにしている。理解のできない人にはその都度根気よく誘導して理解に繋げるよう努力している。	○	トイレが理解できず居室で放尿してしまう人にどうやって理解を得ていくか話し合ったり工夫したりしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節や天気に応じてウッドデッキで過ごしたり菜園で園芸を楽しんだりしてもらっている。		ウッドデッキの活用方法をさらに検討したい。例えば食事やティータイムに利用したりする。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)